

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1770101598		
法人名	株式会社 北陸福祉医療開発		
事業所名	グループホーム レインボー2		
所在地	石川県金沢市入江2丁目210番地		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(有) エイワイエイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和4年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中でのんびりあせらず個々の出来ることを活かし、役割を持ちながら共に生活を送るもの同士として信頼関係を築けるよう支援に努めている。
入居者様の重度化により、ホームで看取りとなる方も増え、ご本人やご家族様の思いを尊重し主治医とも相談しながら対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,42) ○	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：42) ○	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：40,41) ○	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：53) ○	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31) ○	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)]

己	自	部	外	項目		自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		ユニットの出入口の見えやすいところに掲示し、いつでも理念を確認しながらスタッフ間で共有し、実践につなげている。				
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		新型コロナの感染予防のためくるみ保育園の運動会や町内の夏祭りに参加できていないが、くるみ保育園の園児より、敬老の日のプレゼントを頂くなどの交流はしている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		2ヶ月に一度レインボーだよりを発行し、入居者の生活の様子や、認知症の方に対してどのような方法で支援しているのかを掲載している。		/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		2ヶ月に一度開催しているが、新型コロナの感染予防のため、文書でのやりとりで行っている。				
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		運営推進会議の文書にて入居者状況やどのような取り組みをしているかを案内したり、必要に応じ連絡し、協力関係を築けるよう努めている。				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		日中は出入が自由にできるようになっている。夜21時～朝6時までは施錠している。身体拘束については、1Fの玄関にも貼ってあり、ユニット会議で偶数月に話し合い、どのような行為が拘束に当たるのかなどを理解し、しないケアに努めている。				

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段よりスタッフ同士で話をしたり、ユニット会議でも虐待チェックリストを利用して話す機会を作り、虐待防止に努めている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないため、全ての職員が理解できているとは言えない。相談があった場合は活用できるように支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご本人やご家族様の不安な点などをお聞きしながら説明し、ご理解いただけるように努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、入居者様の意見や要望を普段の会話の中でお聞きしたり、ご家族様には電話や来訪の際にご意見やご要望をお聞きし、管理者へ報告したり、会議などで話し合っている。契約時には、苦情など外部へ申し立てできることをお伝えしている。玄関にも相談窓口の連絡先を表示している。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日中の会話の中で、管理者やリーダーに意見を伝えている。代表者には本部会議で管理者より意見、要望を伝え、反映させている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の個々の努力や勤務状況を把握し、会話を通し、各自が向上心を持てるよう配慮したり、資格手当、能力手当や公休希望を聞くなどし、職場環境、条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりの力量をみながら、研修を受ける機会を設けている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、同業者との交流は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの中から、本人の困っていることなど聞いたり、不安そうにしておられる時は声をかけるなど関係づくりに努めている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話をする中で、困っていることや不安なことがないかをお聞きするようになっている。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでどのように生活していきたいか本人や家族にお聞きし、それにあった支援は何かを考えるようになっている。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来そうなことを声かけし、他入居者様やスタッフと共に行い、共に暮らすものとして関係を築いている。		
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来られた際に、ホームではどのように過ごされているかや思いなどをお伝えしながら関係を築いている。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナで外出の機会は少なくなったが、面会時間や人数の制限はあるも、感染対策として検温、消毒、マスクをしていたり訪問していただいている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士話ができるようにスタッフが間に入ったり、洗たくたたみなど一緒に行うことで会話しながら関りを持っていただけるように支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際に何かあればいつでも相談に来てくださいとお伝えはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の中から、どのように過ごしたいのかをくみ取り、スタッフ同士話し合いながら検討している。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から昔の話を聞いたり、どのような生活をされてきたのかなどをお聞きしながら把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食後横になられる方や、毎日日課として新聞やチラシを見る方など、それぞれの過ごし方を把握するように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のお話を聞いたりしながらユニット会議で話し合いケアプランを作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践の結果を記録に残し、センター方式のD4用紙を利用し、気づきなどを記入し、スタッフ間で共有しながらケアプランの見直しに活用している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族とも相談しながら、体の拘縮などがある方は、マッサージのサービスを利用して頂いたりするなど、支援に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の床屋さんが散髪に来られたり、週一回ヤクルトさんが販売に来られたりしている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と話し合い、かかりつけ医を決めていただき、2週間に一回往診に来ていただいている。入居者様によってはご家族と一緒に受診に行かれている方もいる。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化など気づいたことや心配なことがあれば報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医より、入院医療機関へ情報提供やホームより入居者様の生活状況などを伝えている。退院の際は状態を聞き、早期退院に向けて退院時期などを相談している。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望をお聞きし、かかりつけ医と話し合い、ホームではどのようにしているのかやできることを説明し支援している。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応できるとは言えないが、何かあればリーダーやホーム長に連絡する体制となっている。事故が起こった場合は事故報告書を作成し、今後どのように防止するか又は対応したらよいか、ユニット会議で話し合っている。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時は、ホーム長やかかりつけ医に連絡し、支持を受け対応する体制が出来ている。		
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	何かあればかかりつけ医に24時間連絡、相談できる体制となっており、支援体制が出来ている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各ユニットに1名ずつ職員がおり、緊急時はホーム長に連絡し支持を受けたり、かけつけたりできる体制となっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルはあるが、全ての職員が身につけているとは言えない。側溝があふれたときは止水板で対応したり、町内の方に連絡すると見に来られたり、地域との協力体制もある。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラーや火災報知器設置や消防にも直接つながるように整備されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格などに合わせたこえかけをし、プライバシーを損なわないように努めている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際は、服を選んでいただいたり、本人にどうしたいかなど意思を確認するように努めている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり寝ていたい方は無理には起こさず、本人のペースで過ごしていただきたり、食事のペースもその方に合わせるように支援している。		
43	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでいただきたり、「髪を切りたい」と言われた際は、希望をお聞きし、床屋さんに来ていただき、好みの長さにして頂くなどの支援をしている。		
44 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何が食べたいですか？」とお聞きしたり、土用の丑の日にはうなぎをお出ししたり、旬のものをお出しするなどしている。できる方はお盆拭きなどの片付けを行ったりしている。		
45	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、刻み食やブレンダー食、とろみをつけたり、水分量が少ない方は表をつけたり、声掛けし飲んで頂くようにしている。		
46	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、ご自分で出来る方はして頂き、出来ない方は介助にてして頂き、義歯を預かり洗浄剤につけて清潔に保っている。		
47 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせ、排泄チェック表をつけ、トイレに行っておられない方に声かけし、トイレに行っていただくように支援している。		
48	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を飲んで頂いたり、水分を取っていただくなどして頂いたり、排便チェック表にて確認し、便秘気味の方はかかりつけ医に相談し、薬を処方してもらうなどしている。		
49 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「お風呂に入りたい」と言われた際には入っていただき、ご自分で言われたい方は入浴の声かけし、本人の意思を確認し、入浴して頂いている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況を見ながら、眠気が強い時には休んで頂いたりしている。どうしても夜間眠れない方はかかりつけ医に相談している。		
51	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフが管理し、声かけし内服して頂いている。一人ひとりの薬の情報をファイルしており、不明な点や何か気になることや入居者が散剤が良いときはかかりつけ薬局に相談している。薬が変わった際には申し送りし、何か変化がないか気を付けるようにしている。		
52	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみ、新聞たたみなど声かけし、役割となるよう支援している。コーヒーやジュースおやつなど、一人ひとりの好みの物をお出しすることで楽しみとなっている。		
53	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は新型コロナのため、外出は控えているが、受診の際にご家族と外出されることで気分転換されている方もおられる。		
54	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族と相談し、おこずかいをお預かりし、ヤクルトを購入したり、お菓子や果物など、希望があれば購入し、使えるように支援している。		
55	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われた際には、スタッフが連絡し、本人とご家族と話せるように支援している。		
56	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に注意しながら、エアコンを調節したりしている。壁にはその時期に合った飾り付けをし、季節を感じられるようにしている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の入居者同士の関係性を見ながら席替えをしたり、ソファでゆっくり過ごせるようにしている。		
58	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が本人が使われていたテレビやタンスを持ってこられたり、写真などを持ってこられ、居心地よく過ごせるようにしている。		
59	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をかけたり、トイレの場所も分かりやすいよう表示したりし、テーブルの位置も車椅子を自走される方もおられるため、通りやすいようにするなど、安全を考慮している。		